

りべら

2014.8

133

号

りべら 2014.8 133号

特集:みんなで守る みんなで助かる!

高潮防御訓練ルポ～鉄扉を閉めて、地域を守る～…1

減災まちづくり～南海トラフ地震に備えて～ 越山健治…3

南海トラフ地震で西淀川区はどうなる?…4

西淀川区での防災の取り組み…5

西淀川区の過去の災害 谷内久美子…6

こんな企業が西淀川に!いざというときの防災・避難グッズ…7

【最終回】復興まちづくりの現場…8

忙中一筆 永坂美晴…9

連続講座 人にやさしい公共交通…10

西淀川記憶あつめ隊:こんなところで西淀川人 鹿児島県甕島…11

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり おいしいわ西淀川…12

【最終回】町工場の夕日～御幣島のひなやん編～…12

あおぞら広場…14



左門殿川にかかる左門橋左岸の鉄扉を閉める (P1-2) / 西淀川筋高潮防御訓練 (2014.7.6)

あおぞらフォトギャラリー



あおぞら野菜市でお買いもの。野菜、手づくり雑貨など。毎月第4水曜日11:00～13:30/あおぞらビル1F (2014.6.25)



エコでつながる西淀川推進協議会設立総会 藤井絢子さん (全国菜の花プロジェクトネットワーク・代表)にご講演いただきました (2014.7.6)



タンDEM自転車の走行会を大野川緑陰道路で開催しています (2014.5.24)

お知らせ

【あおぞら財団主催】

●大野川緑陰道路でセミのぬけがらしらべ

日時:8月11日(月)、18日(月) 10:20～12:00(各回とも)

会場:11日(月)西淀川図書館、18日(月)エルモ西淀川

参加費:無料

対象:小学生

【あおぞら財団主催】

●佃のむかし どんどころ?

～聞いて食べてしゃべって

PART3～

日時:8月19日(火) 13:00～15:00

会場:佃会館

参加費(軽食代):500円

内容:佃の風物詩「箱ずし」を食べながら、佃の昔のお話を聞いてしゃべります。今回は「藪床」の謎に迫ります!



【自転車文化タウンづくりの会主催】

●第7回 御堂筋サイクリクニック

日時:9月21日(日) 10:00～15:00

自転車の正しい利用と、走行環境の整備を求めて

御堂筋を走ります。詳しくは

<http://cycleweb.jp/cyclepicnic/>

あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885
電子メール:webmaster@aozora.or.jp <http://aozora.or.jp/>

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

あおぞらビル

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00) / 要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、
法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

*郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名:あおぞら財団

*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通 3764689

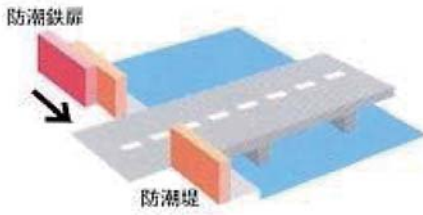
口座名義:あおぞら財団賛助会員

西淀川筋高潮防御訓練の概要

日時: 2014年7月5日(土) 22:30~7月6日(日) 2:30
訓練本部: 西淀川区役所
対象: 淀川、神崎川、左門殿川にかかる防潮鉄扉17カ所のうち、西淀川区内では11カ所で点検、操作を実施
規制: 6日(日) 1:00~2:00の間、国道2号・国道43号・大阪市道を全面閉鎖

防潮鉄扉

防潮鉄扉は、道路橋や鉄道橋に設けられており、洪水や高潮のときに閉鎖することで「堤防の一部」となり、水害を防ぎます。



出典: 大阪府 南海トラフ巨大地震対策資料
<http://www.pref.osaka.lg.jp/nishiosaka/emergency/nankaitorahu.html>

水防団

水防法により設置されており、団員は、洪水、津波、高潮のときの被害を最小限に食い止め、水害から地域住民を守るのが仕事です。地域住民により構成されており、毎年、水防工法や鉄扉の操作、無線通信などの訓練をしています。淀川の右岸に面している西淀川区では「淀川右岸水防事務組合」が管轄しています。

【水防事務組合<http://www.suibo-osaka.or.jp/>】

訓練時々刻々

7月5日(土)

22:30 訓練水防本部、水防団本部開設
 23:15 水防団訓練出陣式
 23:45 出動指令

7月6日(日)

0:40 道路通行止めを指令
 0:50 鉄扉操作のため準備作業完了
 1:00 道路通行止め
 1:05 鉄扉閉鎖指令
 1:30 鉄扉開放指令
 2:00 道路通行止め解除
 2:05 鉄扉施設の片付け
 2:30 訓練出動解除、本部解散

ルポ記

日頃なら、眠りについている時間に、これだけたくさんの人たちが地域を守るために働いている。道路が通行止めになり、鉄扉が閉まると、いつもとは景色が違って見えました。いざ、高潮や津波が襲って来たときのことを想像すると、不安になりますが、こうやって命を守るために日夜努力している人たちに感謝して、自分もできることは、やらなければ、と気持ちが引き締まりました。

おっかれさま~



特集

みんなを守るみんなが助かる!



高潮防御訓練ルポ~鉄扉を閉めて、地域を守る~

海や川に囲まれた西淀川区では、これまでに何度も台風による高潮被害を受けてきました(本紙P6参照)。大阪市では、台風シーズンに備えて、洪水や高潮による被害防止を目的にした、防潮鉄扉の点検・操作訓練を毎年実施しています。西淀川区役所内に本部が設けられ、国、大阪府、大阪市等の関係機関が協力し、地元住民からなる水防団員123名(西淀川区)が参加する深夜の大規模な訓練をレポートします。



南海トラフ地震で西淀川区はどうなる？

平成25年10月30日に「大阪府防災会議南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会」において、南海トラフ巨大地震の被害想定が公表されました。西淀川区では、広範囲での液状化の可能性が指摘され、堤防沈下による河川水の流入や津波により甚大な人的被害が想定されています。対して、大阪府・大阪市・西淀川区役所では、市民と協働しながら、様々な防災対策を進めています。

防潮堤の液状化対策



大阪府では、平成25年度より防潮堤・水門などの耐震・耐津波対策について調査・耐震工事が行われています。

一級河川中島川 防潮堤補強工事 (中島大橋下流左岸)



防災行政無線の警報方法の見直し

長い警報文からサイレンと短いアナウンスを併用した警報へ変更 (平成26年1月17日大阪市震災総合訓練から)

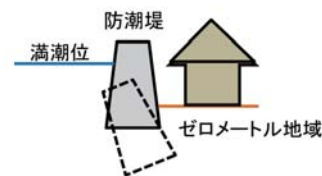
緊急事態の種類	警報音パターン(サイレン)	広報文
テロやゲリラなど武力攻撃に関する警報 弾道ミサイル攻撃に関する警報	連続音 14秒	〇〇攻撃情報、〇〇攻撃情報。当該地域に〇〇攻撃の可能性があります。屋内に避難し、テレビ、ラジオをつけてください。
大津波警報	連続音 3秒 休止音 2秒 連続音 3秒 休止音 2秒 連続音 3秒	大津波警報が発令されました。丈夫で高い建物へ避難してください。
津波警報	連続音 5秒 休止音 6秒 連続音 5秒	津波警報が発令されました。丈夫で高い建物へ避難してください。
避難指示	連続音 15秒 休止音 10秒 連続音 15秒 休止音 10秒 連続音 15秒	【例】〇〇川が氾濫するおそれがあり、□□地域に避難指示が発令されました。ただちに避難所へ避難してください。
避難勧告	連続音 10秒 休止音 10秒 連続音 10秒 休止音 10秒 連続音 10秒	【例】〇〇川が氾濫するおそれがあり、□□地域に避難勧告が発令されました。すみやかに避難所へ避難をはじめてください。
緊急地震速報 (震度5弱以上) ※1	緊急地震速報チャイム音	緊急地震速報、大地震です。大地震です。

※1 緊急地震速報は、震源が近く、揺れの到達時間が早いと予測される場合、揺れから放送することになるため、放送しない場合があります。

出典:西淀川区広報紙「きらり☆にしよど」2014年1月号



防潮堤の沈下による満潮時の浸水イメージ



出典:大阪府 第5回南海トラフ巨大地震土木構造物耐震対策検討部会資料

要援護者支援対策の推進

西淀川区役所では、災害時における要援護者支援の取り組みとして、①要援護者名簿のデータベース化、②要援護者名簿を提供するため各地域の自主防災組織立ち上げを支援、③要援護者個別支援プランの策定を支援、などを行っています。

出典:平成25年度西淀川区政会議 第6回(2013年12月24日開催) 資料「南海トラフ巨大地震対策について」より



安全は隠し味である

昨日、私の恩師である先生の講演があり原点を思い返しました。「安全は隠し味である」という言葉です。減災という目的で、多くの人々に危機感を持ってもらうのは災害対策を考える上で必要なことではありません。また、可能な限り防災対策を実行することも重要です。しかし、それはあくまで日常生活の「隠し味」でなく、いけません。この味を加えずに、料理(日常生活)がまずくなくなってしまふ(著しく日常でなくなる)のは筋違いです。防災・減災を考えることは、日常生活の「味」について考えることであり、その対策を実行

することは、日常生活をより良いものにするに他なりません。「安全は隠し味である」にはもう一つ意味があります。それは、一般の人々が意識しない状態でも徐々に高め、維持することが必要なものである、という意味です。防災対策の重要性は、人の命を守る目的があり、大事に決まっていると思うかもしれませんが、だからこそ世間の興味関心や風潮に左右されず、地道に、一般の人の目に見えないところでも、着実に実行することが求められるものです。現に、20世紀後半の日本の都市は、それ以前に比べて急激に災害被害量が低下してきました。

ずっと声高に防災、防災、と言われてきたわけではないにも関わらず、です。高度成長の陰で、着実に対策を実行してきた成果だといえます。

防災・減災対策の転換点 防災まちづくりへ

ところが、阪神・淡路大震災を経て21世紀に入り、これまでの方法では十分に防災効果を得ることができない、と思われる災害が頻発しています。「意識されない隠し味」が効かなくなってきたのです。時代は変化し、これまで防災・減災を担ってきた公共部門の力が落ちてきました。そのため「隠し味」は、市民レベルでより意識すべきものに変化してきました。

が今現在の段階といえます。人知れず行われる対策のレベルに限界がやってきて、その分は意識するレベルで対応していかなければなりません。その意味で私たちは防災・減災対策の転換点にいるといえます。

減災まちづくりを行っていくためには、みんなである程度共通の目標を決めた方がいいでしょう。そのために示されたものが被害想定です。どんなことが起こるかを想像し、災害を防止する、または災害に対処するために、日頃の力を結集し、長期間かけて、こつこつと高めていくための方策こそが、減災まちづくりです。

決して、背伸びをすることなく、日常の安全を高め、また生活を改善していく中で実行することが重要です。そのためには、被害想定の数値は正しく理解し、正しく使いましょう。決して怖がるだけに止めてはいけません。

確かに南海トラフ沖巨大地震は、日本にとって、またこの地域にとって脅威です。しかし、ひとりひとりの取り組みが積み重なり、また補い合える活動を通じて、新しい防災・減災対策を進めていけば、きっと被害を軽減できる社会を築くことができるでしょう。そのためにも私たち専門家も努力していきたいと思えます。

減災

まちづくり

南海トラフ地震に備えて



関西大学社会安全学部 准教授 越山 健治

西淀川区の過去の災害

西淀川区は、繰り返し大きな災害被害を受けています。災害に強いまちにしていけるためには過去の災害をふまえた対策をすることが重要ですが、西淀川区は人口の流出が激しく過去の災害の経験が語りつがれていません。あおぞら財団と大阪大学では、第2室戸台風の体験について、西淀川区在住の方々にお話を聞きました。

第二室戸台風の経験談

◆お年寄り、赤ちゃん、妊婦といった人ほど避難が遅れる ◆水害は音が静かで、気が付いた時にはもう水がそこに!

うちは子どもが6ヶ月児で避難所に行くのに抵抗があり、家にいました。主人が外に様子を見に行くと、近所の人みんなが「水が来たぞ」と叫んでいました。そこで、70歳のおばあさん、6ヶ月と1歳半の子供を連れて命からがら逃げました。水が膝ぐらまでできていた中で、水に足をとられながら逃げました。道に寝かしてあった電信柱やゴミ箱が水と一緒に追いかけてきて、とても怖かったです。(当時23歳、大和田在住、女性)

◆水がなかなかひかない。トイレに困った

一週間ほど水がひきませんでした。水がひいたと思ったら、あくる日の朝にはまた水が浸っていました。トイレは屋根越しにお隣に行き行って借りました。当時は水洗トイレではなかったので、浸水してくる水もとても汚かったです。(当時36歳、大和田在住、女性)

◆避難せずに自宅にいた人も

・自宅は一尺(約30cm)ぐらい水に浸かりましたが、2階に避難しました。当時、2階がある家は少なく、2階の床が落ちるかと思うほど近所の人がたくさんきて1週間ぐらい一緒に過ごしました。(当時41歳、大野在住、女性)
・避難せずに自宅にいました。水に浸かっているところはテーブルの上に畳を敷き、そこで生活しました。(当時27歳、大和田在住、男性)

災害の記憶を探してみましょう

みなさんも身近な人の過去の災害の経験をきいて、災害に自分が遭ったら、どういう行動をするのか? 普段から何に気を付けた方がいいのか? といったことをみんなで話してみたいかでしょうか?
(日本学術振興会特別研究員 谷内久美子)

にしよどがわ防災まちづくり通信
Vol.3「西淀川の災害記憶をまなぶ」(2014年2月)より。
※この活動は公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成でおこなわれました。

年月	災害	被害
昭和9(1934)年9月21日	室戸台風	台風により高潮襲来。区内全域浸水。死者・行方不明者243人、家屋の全半壊・流出516戸
昭和25(1950)年9月3日	ジェーン台風	台風により高潮襲来。区内全域に浸水。死者・行方不明者58人、家屋の全半壊・流出8,786戸
昭和36(1961)年9月16日	第二室戸台風	高潮で神崎川氾濫、大和田・出来島・御幣島地区等浸水。家屋の全半壊・流出500戸
平成7(1995)年1月17日	阪神淡路大震災	区内液状化による不等沈下。家屋全半壊787戸



出所:大阪府公文書館

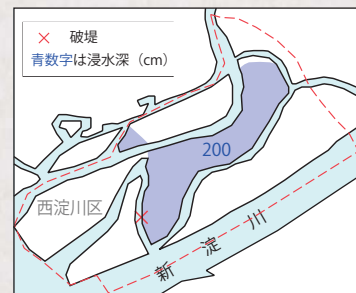
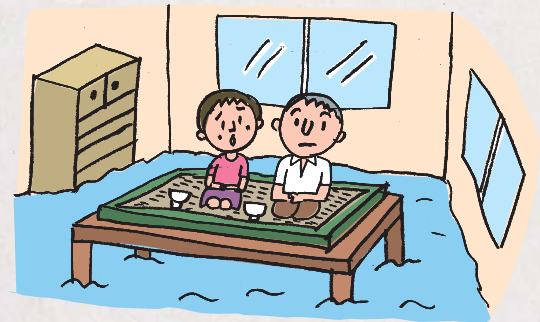


図 第二室戸台風の高潮浸水域

特集 みんなで守る みんなを助ける! 西淀川区での防災の取り組み

◆地域で避難訓練

西淀川区区内では、全14地域それぞれで防災の取り組みが進められています。今回は、佃6町会合同による一時避難訓練(7/20開催)の様子をレポートします。

7月20日(日)、南海・東南海地震に備えて、佃6町会合同による一時避難訓練が開催されました。午前10時に、地域の方171名が市営住宅内の広場に集合し、高所への避難訓練、布製タンカを活用した要援護者の避難補助訓練などが実施されました。中畑稔災害救助部長曰く「普段から、自宅近くの津波避難ビルを把握し、逃げる心構えを持ってください。訓練を通じて、『いざ』という時に備えましょう」



4階まで上ってみました



タンカを使って搬送訓練

◆福祉避難所での取り組み

西淀川区では、災害発生時に収容避難所で生活することができない要援護者(高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児・病弱者等)が避難を余儀なくされた場合、専門的な対応が可能な社会福祉施設等の一部を福祉避難所等として提供できるように区内の9施設と協定を締結しています(2013年5月24日)。今回は、その中から障がい者施設と高齢者施設をご紹介します。

ここは、千舟2町会「いきいき班」です。

特定非営利活動法人いきいき (管理者 文栄弓子さんより)

福祉避難所としての協定を結んでいますが、具体的に何をしていくか? 試行錯誤しています。昨年、千舟地域の方々から「災害時緊急カード」の作成を勧められました。利用者さん(30名程)に呼びかけたところ、全員が登録することに。各自の名前・住所・緊急連絡先・持病・町会班などが記載され、町会でラミネート加工もしていただきました。町会班は、千舟2町会「いきいき班」です。千舟地区の防災訓練にも参加しました。今後も、地域の方々との普段からのコミュニケーションを大切にさせていただければと思っています。
(千舟2-10-6、事業体系:生活介護・就労継続支援B型)



ダンボールの仕切り壁で避難訓練中



防災頭巾をかぶって避難訓練中



みんなで協力して搬送訓練中

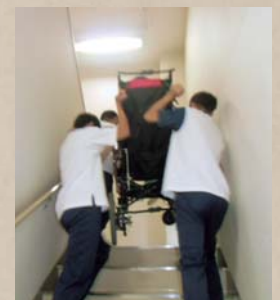
地域と連携しながら、 防災に取りくんでいければ。

(社福)松福会 西淀川特別養護老人ホーム (事業支援課長 西尾篤氏より)

緑陰道路に面した6階建ての特別養護老人ホーム・ショートステイ施設として、平成9年に開設しました。津波が来るかどうかで避難計画が大きく変わってくるのが悩ましいところです。昨年度は、隣接する西淀川特別支援学校等と連携して、当施設への避難訓練を実施しました。逃げ方や避難経路の確認をすることで、様々な課題も見えてきました。今後は、地域の防災訓練にも参加していきたいと考えています。
(大和田2-5-11、事業体系:特別養護老人ホーム・ショートステイ)



上階へ逃げる訓練中。よっこいしょと、あせらずに。



車椅子を担いで階段を上ります。息を合わせて、イチ、二、イチ、二。

災害対策用保存食

温めずにおいしく食べられるレトルトカレー「常備用カレー職人」

災害常備品にはレトルト食品って助かりますよね。だけど、温めるための鍋、水、そして何より熱源まで必要。このカレーは、植物性の油を使うことで固まらず常温でも食べられる！そして、災害後はいつ元の生活に戻れるか分からない状況で、甘口と中辛の2種類があるなんてその気遣いが嬉しいですね。



みんなが知ってるお菓子も5年保存できます「ビスコ保存缶」



子供から大人までみんな1度は食べたことがあるお菓子「ビスコ」。缶に脱酸素剤を入れて密封することでなんと5年も保存が可能に！災害時、疲れてきたときには、そう甘いものがあればみんな笑顔になれますね。

販売元: **江崎グリコ株式会社**
 所 西淀川区歌島4-6-5
 ☎ 0120-917-111
 HP <http://shop.glico.co.jp/gift-food/hozonkan.html>

※あおぞら財団では、ここで紹介した商品のサンプルやカタログを置いてあります。ご興味のある方は是非訪ねてきてください。

水やコップ、スプーンがなくても薬が飲める **服薬補助ゼリーキット「GTパック」**

阪神淡路大震災を経験された営業部長の池田さん「あの災害時はホントに水が貴重だったんです」。GTパックは、もともと薬をうまく飲み込めない患者さん向けに、薬をゼリーで包んでごっくんと飲み込みやすくする商品として開発してきました。「この商品は他に何に使えるんだろうか、もっと必要としてくれる人がいるんじゃないだろうか」そんな風に真面目にコツコツと考えた先に出てきたのが、災害時には薬を飲む水さえ貴重だった経験でした。実際に試してみると、薬とゼリーが混ざって分離することなく、するりと飲み込みました。「コレ、ゼリーにすごいでかかわってるんです！」戦略営業部の嶋田さんは熱く語ります。柔らかくても硬すぎてもダメ。でも押し出したときにはゼリーがうまくずれ、薬剤をしっかりとコーティングして飲み込める。ゼリーを包むパッケージにも優しい工夫がいっぱいです。防災用に備蓄してもらうためには長期保存に耐えなければと、小さな商品は今も日々進歩しています。医療機関向け商品の「GTパック」ですが、同等の一般向け商品「のめるもん」もあり、Amazonで



販売元: **株式会社モリモト医薬**
 所 西淀川区御幣島5-8-28
 ☎ 0120-600-937 (お客様相談室)
 受付時間 9:00~17:30 (平日のみ)
 HP <http://www.morimoto-iyaku.jp/>

戦略営業部の(左)嶋田さん
 戦略技術部の(右)安元さん



こんな企業が西淀川に！
 いざというときの
防災・避難グッズ

実体験から閃いた、消防署員もうなる **救護担架「フレスト」**

「着想から試作を重ね、販売まで6年もかかったのよ」とにっこり笑うのは、開発に一貫して関わってこられた梅(とが)さん。どうしてこの3人で運ぶ担架を開発したのか聞いてみると「ちょっと体が悪くてね、しょっちゅう救急車で運ばれてたの。担架に乗せてもらって階段を降りるときに何度もずり落ちそうになったの」。そんな時に誰でも楽に安定して搬送できる担架があればなあと思ったとのこと。そうしてできた担架は、細部の作りこみが違います。持ち方、固定の仕方、畳み方、全部に体験に基づく理由があります。一番は、搬送する人が肩にかける紐につけたパット。ここには梅さんの温かい思いが詰まっています。「スポンジやウレタンだと徐々にボロボロになる。一番いいのは『タオルとサラシ』。パットを開いてサラシを取り出せば、災害時にはとても役立つ優れ物になるでしょ。最後にこの商品を作ったホントの理由は「助けられた人が笑顔になれば、助けた人も笑顔になる。そうした『笑顔の連鎖』を作りたかったのよ」と。笑顔でつながる社会貢献を「笑顔経済学」として提唱する梅さん、どこまでも挑戦者です。



販売元: **株式会社輝章**
 所 西淀川区佃2-15-4-708
 ☎ 06-6474-2114
 HP UD卸売市場 <http://www.ud-passion.com/>

住宅用消火器
 家に置いても違和感なし **「ハローキティ住宅用消火器&クマさん消火器」**

消火器は、災害時だけでなく、日常生活でも必要で、台所に常備しておく安心。だけど、真っ赤な色に、ゴツイボディを部屋に置くと、どうしても雰囲気…。戸棚の中に収納すると、存在を忘れてしま…。そんな主婦目線の困ったを解決してくれるのが、初田製作所のキティちゃん消火器！レッド、ホワイトの2カラー3タイプもあり、かわいい(ブラックは開発中)。さらに、キティちゃんだけじゃなくて、緑のボディに黄色のクマの消火器もあります。一見するととても消火器には見えませんが、確かな消火力であなたを守ります！



販売元: **株式会社初田製作所**
 所 西淀川区千舟1-5-47
 ☎ 06-6473-4870
 HP <http://hatsuta.co.jp/household/>

南海トラフ巨大地震がいつ起こってもおかしくないと言われる今、防災対策が急ピッチで進んでいます。地域全体を守る防潮堤の建設や液状化の対策、町会・学校・公共施設をあげての避難訓練などなど。だけど、実際に災害が起こったときにはこうした公助とともに、自分で生き延びる「自助」も大切。日頃から備えあれば憂いなし。なんといっても、防災・避難グッズを準備しておくことですね。そんな防災・避難グッズをつくる会社が、西淀川区にはあります。企業と地域がともに支え合える関係になればいいですね。Ⓜ

◆釜援隊協議会(釜石リージョナルコーディネーター)
 〒026-8686 岩手県釜石市只越町3-9-13 釜石市役所第5庁舎1階
<http://kamaentai.org/> Tel 0193-22-8600 / Fax 0193-55-6699

地域、民間、行政の連携で実現した「馬文化と南部曲り家の再生プロジェクト」

最終回

復興まちづくりの現場

釜援隊の1年の成果

〜セクターを越えた個人のつながり〜

釜援隊が設立され1年以上が経ち、その大きな成果は、セクターの違いを超えた市内の各組織間の連携体制が構築されたことです。協働でプロジェクト推進などの実務的な連携のみならず、居酒屋での情報交換？で個人

釜援隊協議会 黍原 豊
 きびはら ゆたか

と個がつながり「良い地域をつくらう！」という思いが共有されています。地域は個人の集まり。理論より感情が先行します。物事の善し悪しよりも「あいつがやるなら全面的に協力するぜ！」と一人一人の思いが地域をつくります。これまで釜援隊の仕組みを取り上げてきましたが、その仕組みも一人一人の思いがあつてのものでした。

思いをつなぐ作業は一つ一つ積み上げていくしかないのです、外からは変化が分かりづらいですが、釜石では「思い」と「仕組み」の両輪が動き始めました。ツアーや地域づくりの視察研修などでお越しいただき、地域外のあなたの「思い」も釜石とつながり、これからの地域のモデルを一緒に創っていきましょう！

会議をやめて劇にしよう 「もしもの時に1人でも多くの 人の命を救うこと」

あおぞら財団とつながりのある人からエッセイを寄せてもらっています。明石市で要援護者の防災に地域ぐるみで積極的に取り組む永坂美晴さんです。



永坂 美晴（ながさか みはる）
望海在宅介護支援センター長。地域劇の取り組みは、明石市の望海地区在宅サービスゾーン協議会として、平成25年あしたのまち・くらしづくり活動賞の内閣官房長官賞を受賞。あおぞら財団とは災害時の要援護者支援事業で連携中。

入職3か月で阪神・淡路大震災
「会議をやめて劇にしよう」
やや衝撃的な言葉がびつたりとくる活動を紹介しようと、私が高齢者の相談役として在宅介護支援センターに入職して3か月目、阪神・淡路大震災が起きます。何もわからず仮設住宅の支

援に奔走した数年間。災害支援を通してさまざまな人が職種や機関を超えて復興に向けて走っていく。そこには力を合わせることで平常時にできないことが可能になると、とたくさんみえてきました。この経験が私の人生を変えたのかも。医療職であったわたしが

人との繋がりと、誰もが持つ強さとやさしさにあふれています。高齢化率90%を超す仮設住宅は将来の日本を表しているように、でも、数少ない幼児を高齢者たちが囲み、子守りがたらに団欒する。こんなまちにしたい。これが私のめざすユートピアになり、わたしは高齢者福祉、地域福祉へとさらに邁進していきます。

く、失敗してしまったことも伝えるために。そして、いま、東北は阪神・淡路大震災と同じように、住民が自ら立ち上がるようにしています。残された命に託されるように希望の種も蒔かれています。その強さは、わたし自身に忘れかけていた復興期の力をよみがえらせています。

ない。本番はアドリブ連発で会場が爆笑の渦に。でも、劇だけに終わらず、地域に「居場所」ができ、「世代間交流」が実現し、「見守り」が進んで「悪質商法」や「認知症」の啓発理解に繋がる等々。『机の上で何時間かけても解決策できへん会議より効果的や！』と。なにより楽しんでみながら住民と多機関が、年齢や役職を超えて仲良くなれる。

「地域劇」舞台の様子
どっふりどと地域の活動に魅せられ、のめり込んでいると、このプロセスを振り返ると、ひとりで「人とかかわる」ことの媚薬。自分のまちを愛する住民のパワーは教科書では学べないものです。隣の声が丸聞こえ、暑い、寒いわ、けつして良くない仮設住宅の環境ですが、忘れかけていた

東北支援に宮城へ足を運ぶ
平成23年3月11日。再び東北に大震災が…。いてもたってもおられなく発災から2週間後、東北に向かいますが、たくさんの命を奪った自然の猛威に無力さを感じます。何か私の出来ることは、現在も宮城の仮設住宅の支援員さんたちのもとへ足を運びます。私たちが支援を受けた時の恩返しと、私たちが得たものだけではない。

「地域劇」をとおして住民とひとつになった
私が属する望海地区在宅サービスゾーン協議会が平成12年から始めた「地域劇」とは、地域の課題を物語にして住民と行政を含む専門機関が一緒に演じる劇のこと。地域で起こった問題をテーマにしてみんなでシナリオを作り上げ、わいわいがやがや大騒ぎの約2か月間の練習。みんな素人ばかり。台本なんて覚えられ

この「地域劇」が行き着いたのも「防災」です。東北の方々の声を伝えたい。私たちの出来る事。もしもの時に1人でも多くの人の命を救うこと。阪神・淡路大震災と東日本大震災。二つの震災の復興に携わることになった私の人生は「人の命を救うこと」の使命を持って進めたい。というものであると今日も空を仰ぐのです。



第2回『子育てと移動環境
ベビーカーと交通安全』
5/±31

ベビーカーを鉄道利用することに対し、世代の違いでとらえ方にギャップがあります。核家族、共働き、インターネットなどの幅広い情報、母親をとりまく社会環境も変わった今、子どもを連れて外出できる社会環境づくりが求められています。



講師 西本 由紀子さん
(神戸女子大学家政学部助手)

子どもにとって「移動」は発見に満ちています。安全、ふれあい、歩道からの学びが得られる道路づくりが必要です。



講師 谷内 久美子さん
(日本学術振興会特別研究員/大阪大学)



電車等で気兼ねなく利用できるようにするためのベビーカーマーク。
【国土交通省2014年3月26日発表】

第4回『交通バリアフリーの
到達点と課題』
7/±5

2000年にできた交通バリアフリー法のガイドラインに沿って整備がすすみ、地域風土・まちづくりと結合し当事者が本当に使えるバリアフリーを目指す動きがありました。今後の課題として、福祉・医療施策との連動、民間の建築物等との基本構想、車いす体験等を通じて当事者意識をもつ「心のバリアフリー」をひろめていくことなどがあげられます。



講師 三星 昭宏さん
(近畿大学名誉教授/関西福祉大学客員教授)

*各回とも10:00~12:00 場所:あおぞらビル3F(グリーンルーム)にて開催
*第8期環境フロンティア講座、第10期道路環境市民塾として開催しています。(企画運営:道路環境市民塾)
*この事業は土木学会市民普請支援事業の助成をうけて運営しています。

報告

**連続講座
人にやさしい公共交通**

第1回『お金で買えない価値がある!?
人にやさしい公共交通 総論編』
5/±10

人の生活、生き方に何が貢献できるかを皆で考え、地域のバスと補完する福祉輸送などの地域の交通を組み合わせることで整備することが大切。地域で話し合う土壌をつくることは、子孫に残せる大切な財産に。互いの共感が地域の合意を支えることとなります。



講師 猪井 博登さん
(大阪大学大学院工学研究科助教)

第3回『元気でいきいき 高齢者の足
~免許返還後の交通施策~』
6/±14

世界で1番の高齢化率である日本。免許を返しても住みなれた地域で生活できることは非常に豊かなこと。高齢者が軟着陸できる移動手段を目指した地域交通の整備、オプションづくりをみんなで取り組むことが大切です。



講師 北川 博巳さん
(社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団福祉のまちづくり研究所主任研究員兼研究第一グループ長)



「人にやさしい公共交通」を4回の連続講座で開催。いろいろな立場の人がお出かけできる環境づくりの課題や施策を学び、考えました。講師の言葉よりそのエッセンスを紹介いたします。Ⓧ
毎回、後半は意見交換議論の時間。予算等に限りがある中、「どこまで整備すればよいか」という点などの回でもありました。解決策のひとつとして「市民の合意。その折り合いをつけるための議論が大切ですね」。

西淀川記憶あつめ隊

Vol.10

今回は高田研理事事からの投稿です。鹿児島島で出会った西淀川人についてのお話です。

鹿児島県鹿児島市
鹿兒島県鹿児島市

2014年5月10日
訪問



◆段々畑で出会った西淀川人

鹿児島は鹿児島島から鹿児島本線を熊本へ向い川内駅で下車。河口にある港から高速船で東シナ海を40分(距離約26km)。主産業は漁業と観光。漁業は通年のキビナゴの刺し網やブリなどの定置網。カンパチやマグロの養殖場もある。私が訪れたのは上嶋島里地区(人口1305

人/2013)。町は2つの島を繋ぐ陸繋砂洲(トンボロ)上にある珍しい集落。農業は耕地に適した平地が少なく、山の斜面に細かい段々畑を一面に拓き、麦や甘藷を栽培してきた。近年は焼酎の原料となっている。

かつての段々畑は放置されて常緑広葉樹に覆われている。段々畑の面影を辿って斜面を登ると、小さな2枚ばかりの畑の手入れをするTさん(1938年生、76才男性)がいた。Tさんは畑で、生食するラッキョを栽培していた。上段の畑は30年も放置されて樹木が繁り、畑を覆う様になってきている。雑談していると、Tさんはなん

と西淀川に住んでいたという。

◆漁業↓炭鉱↓西淀川

Tさんは鹿児島生まれの3男。小学生の時に父親と死別し、残された3人兄弟と母親は叔父さんの元に身を寄せた。中学校を卒業(1953年)し、16才の時、兵庫県竹野で水産会社の漁船に乗り、巻き網漁をした。しかし「ナグレ(放蕩し)」て辞めたと本人は語る。その後北海道に渡り、歌志内にあった三井の炭坑で働いた。仕事は大成建設が建設して



いた立坑の(ウインチによる巻き上げ部分)工事に従事した。しかし炭坑では当時ガス爆発事故(1958年三井砂川炭坑爆発事故)が起こっており、危険な職場であったので約7ヶ月でやめた。その後、兵庫県尼崎市に移って西淀川の玉造鋼業株式会社で圧延の仕事に就職する。スクラップとなった船の鉄板をシャーリング(せん断加工)し、炉に入れてローラーで6回延ばし、13ミリまで薄くする仕事。今と違って全て手作業であった。田中角栄が首相だった34、36才頃は工場内に在庫が残らない程景気が良かった。尼崎在住時に結婚して子どもが出来、運良く府宮姫島住宅(1962年建設)に入居して、西淀川の住民となった。入居した頃は

川の悪臭もひどかった。その大野川が埋め立てられて1979年に緑陰道路として生まれかわった所まで見届け、母親の介護をするため41才で家族ともども鹿児島島に帰った。母親は島に帰って1年半後に亡くなった。あれから35年、西淀川との繋がりもほとんどなくなったという。帰島後は水産会社に入り、無人島であった宇治群島(鹿児島より南方約53km)の飯場で寝泊まりしながら定置網漁をしていた。東京で働いていた長男は病気で亡くなり、次男は生まれ故郷の尼崎にいる。

◆西淀川を支えた人たち

高度経済成長の時代、西淀川の鉄鋼業は元気があった。その労働を支えていたのがTさんのように地方からの若者達であった。パブル景気が終わる80年以後、故郷にUターンした人々も多い。西淀川の歴史を語る時、決して忘れてはならない人々であるとあらためて思った。

高田 研
(都留文科大学文学部社会学科教授)

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり

おいしいわ西淀川
第11回

(イラスト:とりやまひろこ)

所 西淀川区福町2-27-4
休 土日、祝祭日
営 11:00-21:00
☎ 06-6475-7578

所 西淀川区姫里1-10-12
休 月曜日
営 17:00~翌3:00
☎ 06-6471-7877



豚玉



豚玉

お好み焼きとうま和(かず)

和子おはあちゃんが作ってくれるお好み焼きは、ボリュームあり、甘めのソースが懐かしいけど、家で作るものとはどこか違う。おいしい。実は40年も続く老舗なんて、遠方からも足しげく通うお客さんも。「座敷もあるからお子さん連れでも大丈夫。近所の若いお母さんもどうぞ来てね」と話されていました。



ねこ丸

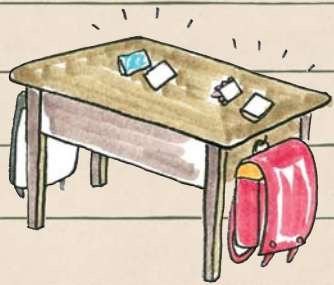
飲んだ後の締め、夜中に無性にお好み焼きが食べたくなって大丈夫。深夜3時まで開いているお好み焼き屋、それがねこ丸です。これを王道と言われはかりのどっしり系お好み焼き。横に添えられたたっぷりマヨネーズが、これまた食欲をそそります。他にも沢山のメニューがあるので是非食べたいお店です。

最終回 町工場の夕日 ~御幣島のひなやん編~

子どもにとっての自然とは、育つ環境の中にあるものだ。というのが、海へ行ったとき潮だまりのニオイで気分が悪くなったわたしの実感。それでも、地道を通る車も少なく、テレビの子ども番組もあまりなく、いろんな時間がゆるやかに過ぎた記憶はもう50年前のもの。



高層マンションにおける子育て生活が以前の長屋とは変わったように、空間的变化として覚えておきたいのは、各地で古い学校校舎が次々に建て直され、その多くが職員室を二階に配置したことにより、先生と子どもの関係性が大きく変わった...と、わたしは確信している。



それから、トイレ関連の変化。昔は家も学校も「ポットン便所」で、よく覗き込んだし、持ち物をよく落として嘆いた。トイレットペーパーはなく、小中学校ではハンカチ&ハナ紙の忘れ物検査が毎日のようにあり、その紙の模様や香りで女子たちは盛り上がった。やがて水洗トイレとなり、しばらくしてあちこちの施設で自分のナマ気配を消す装置(音姫さん等)が現れた辺で、近代における「他者との距離感」は決定的に変わった...というのがこれまた個人的な持論。ほんじゃ男性たちは?とトイレ考を続けたいくらいだが、残念ながら最終回(笑)。人はお互いに違うけど、こんなに一緒だね、というテーマのつもりが脱線したまま、これにて失礼します。

西川 日奈子(NPO法人西淀川子どもセンター代表)

ありがとうございます

(2014年4月～2014年5月 敬称略・順不同)

●入会

谷内 久美子

●お助けボランティア

大野 みさ子
岡崎 久女
岡村 裕成
左成 志朗
張 慧超
西堀 京美
前田 浩輔
山下 晴美

●寄附・寄贈者

柏原 愛子
奥村 昌裕
石塚 裕子
田中 佳世
蔵本 幸治
宮崎 悦子
酒井 健一
中村 昌史
新田 保次
山本 康子
谷内 久美子
西本 由紀子
傘木 宏夫
笑福亭仁勇
樋本 忠義
湯川 創太郎

● 緑道散歩



緑道にあるあおぞら財団の「いこいの花壇」。菜の花栽培の後は歌島中学校の職場体験実習の生徒とヒマワリの種まき。ダンゴムシがいたり、落ちた銀杏から芽がでていたり、土仕事にはいろいろなる発見も。(6/18)

● スタッフツイッター 編集後記

わたくし、高い所は、結構平気です。本紙P1-2の写真の中に、相当高い所から撮影したショットがあります。どうぞ探してみてください。でも、危険なので真似はしないでくださいね。

りべら No.133 2014年8月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:鎗山 善理子、田代 優秋
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp
デザイン:(株)パード・デザインハウス
定価:一部400円(郵送料込)
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



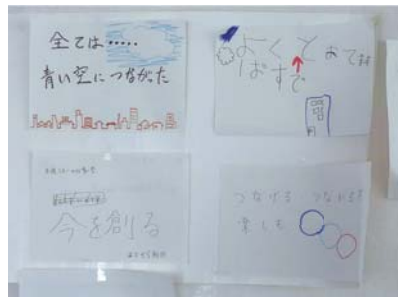
● 会員のつどい レポート

「あおぞら財団会員のつどい2014」を6月1日(日)10時～13時に開催しました。今年の会員のつどいは、「あおぞら財団の“今”大解剖!! 新しいキャッチコピーを一緒に考えよう!」と題し、財団スタッフからの活動報告を踏まえ、第2部では参加者のみなさんに5つのグループにわかれていただき、あおぞら財団の“今”を表す、キャッチコピーを考

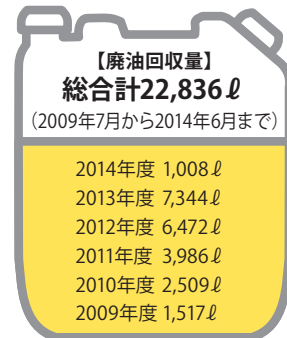


る試みをしました。総勢32人の参加者のみなさんからは「普段、自転車の活動であおぞら財団のことは知っていても、他の事業のことは知らなかった」といった感想が聞かれ、同じグループの他の人が語るあおぞら財団の「いいところ」

を熱心に聞き入っていただきました。中でも今回、盛り上げてくださったのは「みてアート」(31号参照)や「あおぞら野菜市」に関わってくださっている須藤さん一家。当日、参加された患者さんが「子ども連れであおぞらビルに来てくれるなんて、うれしいねえ」ととても喜んでおられました。三雲ちゃん(5歳)からは「よくとおってます バスで」と財団にメッセージをいただきました! 国際交流で通訳を務めてくださっている巫靨(うー・りゃん)さんからは、「日中関係が難しいときに、実践でつながることが大事」というご意見から、中国語で「実践出真知」(意味:実際の行動から真の智慧をもらえる)というコピーをご提案いただきました。また、どのグループでも「手渡したいのは青い空」という言葉は今後も大事にした方がいいという意見が出され、財団の原点を確認することにもつながりました。この日いただいた意見をふまえ財団でキャッチコピーを検討していきます。年に1回開催するこの「会員のつどい」。どなたでもご参加いただけますので、読者のみなさん、ぜひ来年はご参加ください! ●



● 西淀川菜の花プロジェクト ~エコでつながる西淀川~



現在西淀川区内外55箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。詳しくはあおぞら財団まで。



西淀川菜の花プロジェクトブログ <http://nanohanany.blogspot.jp/>



広告

ディサービスセンター

あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
URL : <http://aozoraen.com/>
運営 : NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日:月曜日～金曜日 利用人数: 1日20人

Hamada Kagaku
広告

廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください

廃食油
リサイクル

使い終わった廃食油

食品残渣
リサイクル

加工中に発生した食品残渣

廃棄物
リサイクル

その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。 [浜田化学 コンシェルジュ](#) 検索

浜田化学株式会社 ☎06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

広告

がんばれ 気仙沼 復興商店街

<http://kesenumafs.com/>

CASEまちづくり研究所

〒533-0031
大阪市東淀川区西淡路1-3-26-401
TEL:06-6325-2299
case@case-jp.com
<http://www.case-jp.com/>

りべら

〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

あおぞら財団の活動周知のため
「りべら」発行部数増にご協力ください。

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える機関紙として、年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。あおぞら財団の活動拠点である大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思っております。

現在、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数増をめざしています。(1500部→3000部)。

あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。

いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。あわせて定期購読、会員も募集中です。どうぞ、ご協力をお願いします。

【りべら広告掲載費】
 中面1/9頁:1万円/回
 中面1/3頁:3万円/回
 中面 全面:9万円/回
 お問い合わせ先:あおぞら財団まで
 TEL06-6475-8885